



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09 年度 No.37 4月29日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09 年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09 年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

① 例会記録

② 特集「ロータリーよ どこへ行く」IX



4月12日、カナダからのGSE(研究グローブ交換)メンバー。ミリアム・マックロドさん(セント・ジョンRC)をチームリーダーとして、マイケル君、ホリー・ホワイトさん、ケリーさん、クリス君の4名のメンバーが、池田ガバナー補佐の引率で、井波を訪問され、瑞泉寺山門前での記念写真撮影など、小西会長・高瀬幹事が井波を案内しました。

①第1470回例会

平成21年4月22日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「我等の生業」
3. 会長の時間…「昨日21日、GSE(研究グループ交換)の皆さんが井波を訪問され、幹事と瑞泉寺を案内しました。池田ガバナー補佐が同行され、ニコBOXに1万円を頂きました。GSEグループの食事代等に充てさせて頂きました。吉田郁恵さん、ようこそ、本日は国際親善文化研修生の推薦の面接という事でしたが、卓話をお願いすることになりました。宜しくお願いいたします。」
4. 幹事報告…「①30周年記念式典の中間報告ですが、当日、高柳ガバナーをはじめ、招待者の皆さんから590,000円頂き、ニコBOXは、45,000円(後日頂いた村松会員のものを含む)で、計635,000円の収入がありました。②今までの事業にかかった請求書を幹事まで。③5月30日、「ごみゼロ」です。井波大門川河川敷公園で実施、役所に出す書類を作成し、担当から提出お願いします。④齊藤清策パスト会員より、先日の30周年招待のお礼として、日展富山展の招待券を頂きました。」
5. 委員会報告…①「南砺の山々を守る会」(河合会員): 4月29日、井口椿の里で植樹祭です。井波庄川RCのスタッフジャンパーを着て参加してください。当クラブが協賛です。先日はたくさんの募金を有難う御座いました。②「地区協」(齊藤彰エレクト): 5月17日、金沢、地場産センターで開催。会長・幹事・各委員長、入会3年以内の出席義務者は宜しく。③出席委員会(代理): 24名中16名出席(出席免除者7名中6名出席)・・・出席率69.57%
6. **ニコニコBOX**(助田SAA: 本日8名9,000円)

小西会長: 30周年終え、ほっと。昨日GSE案内しました。

横山豊介会員: 30周年無事終え、嬉しい。日展宜しく。

河合副会長: 30周年お疲れ様でした。南砺の山々の植樹宜しくをお願いします。

三谷会員: 30周年お疲れ様でした。写真お礼。

荒木会員: 久しぶりの例会ですね。

斉藤会員: 遅刻お詫び。30周年無事終わりよかったですね、会長はじめ皆さんお疲れ様でした。

助田会員: 吉田郁恵さん、卓話宜しく。

山本会員: 30周年お疲れ様でした。会報、HPは少し遅れることをご了承下さい。

(4月計 9,000円: 年度累計 328,000円・・・4月12日式典当日のニコBOXはここには含めず)

GSEメンバー井波訪問スナップ (高瀬幹事撮影)





いいのか、友人とも議論しました。研究を進めるには、国内だけではなく、海外でいろんな研究者と議論し、理解を深める必要があると考えています。目標に向かって進むことや今研究したい事や面白いことを突き止めた実現するために、ロータリーの奨学金を頂いて、実現したいと考えています。(山本：要約)

*国際ロータリーの国際親善文化研修生は、1次面接を各推薦RCで行い、5月30日最終試験を得て、全国で5名のみが選ばれます。

卓話「・・・」吉田郁恵さん



吉田郁恵さん：申し込み時には、吉田でしたが、その後結婚し福本といたします。砺波高校、奈良女子大を卒業後、東大大学院家政学部生活環境科で、人はどうやって生きていくのかを研究しました。その後、人の心、人の幸せというものを人間の体の仕組みの中で知りたいと思い、医学部大学院博士課程に入学、指導者の教授にお願いし、嬉しい・美味しい・悲しい・嫌だ、などの精神状態を、つまり心の変化をどのような体の変化で現れるか、科学的に究明できないものか、つまり、脳の外界からの情報を認証判断するメカニズムの研究をさせてもらっています。

中でも、美味しいと感じる嗅覚のタンパク神経から、脳の快感を感じる領域を調べようと論文を調べています。アメリカのサンフランシスコ大学で研究したいと考えています。

大学時代から、自分の考えをいろんな人と話し合い、正しいことを正しいと思わせるにはどうしたら

【編集後記】

創立30周年記念式典が終わり、ほっとしているところです。いろいろ準備に関わって、皆さんの総合力で無事成し遂げた充実感と、達成した後の満足感、さらに時間がたってなんとなく力が抜けていく解放感、いずれにせよ、一つの事を成し遂げるには、いろいろな人のご苦労が積み重なっているのだと、いまさらながら感じました。

いろいろ時代の流れがあり、この30周年がどのように評価されるかは、後の人のみぞ知るところです。

さて、今回は、GSEメンバーが井波を訪問されたこと、国際親善文化研修生の応募と、国際的な話題が2つ重なりました。日本に来る人、日本から海外に出る人、いずれにせよ、昔から見るとほんとに世界は近くなったものだと思います。その中でいかにいいものが残されていくか、また、残していかなくはいけないうか、お互いに考えていきたいものです。

最後に、木村英典ロータリー情報委員長からの原稿掲載が遅れましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

(山本武夫)

シリーズIX 『仕事 第一』

1974年、砺波ロータリークラブに入会した年度のクラブ役員は、会長が岡本元利氏、副会長は川田ニットの川田哲三、そして、幹事には、わがクラブ創設の立役者、庄川温泉の小西順三という顔ぶれであった。

いずれの方々も、すでに故人となられた人ばかりである。

入会月が4月だったため、年度内行事の殆どが終了して、残すのはスポンサーを受け持つ6月の地区協議会の準備だけで、例会といえれば毎回そのためのクラブアッセンブリーの連続であった。ガバナー公式訪問も入会した3ヶ月前に終えていたが、その時、一寸した事件があったことを、後になって小西幹事から聞かされた。

その「ガバナー公式訪問」は、1974年1月14日に行われた。ガバナーは安田常男氏、金沢ロータリークラブ会員で、安田病院の院長であった。ガバナーのロータリーに対する熱弁も佳境に達し、定刻を過ぎても卓話が終わりそうにないその時、この事件が起きた。会員のひとりが席を立ち、無断で退場して行ったのである。

このことが余程ガバナーの癪に障ったと見え、例会終了後小西幹事に、途中退席した会員名とその理由を報告するようにと言い残して、ひとまず公式訪問は終わった。

数日後、会長と小西幹事は菓子箱を持ってガバナーを訪ねたが、さんざん待たされた揚げ句、文句たらたら説教された

と言う。

ロータリーに入会したときの最初の印象は、ロータリーの会合が全て定刻に始まり、定刻に終わるといふ、当然のことが当然のように行われているということであった。今でもその時受けた新鮮な感覚を、今でも鮮明に覚えている。

定刻の終了時刻がきて、席を立って退席したのは、小児科医院の院長である山本幸介先生であった。午後の診療時間に患者さんを待たせてはという思いからであった。

ガバナーもそんなにむきになることでも無かったろうし、山本先生も一言断って行けば何の事も無かった筈である。どっちもどっち、両成敗お構いなしで終わるのか。

いよいよこの5月から新しい裁判員制度が始まる。あなたならどう裁定する。

自分なら何の躊躇も無く、山本先生に軍配を上げる。まず何よりも、自分の職業意識に忠実だったことである。ロータリーは何よりも、その人の職業を尊重する。自分の職業を愛する事、そこからロータリーは始まる。自分の職業に誇りを持ちモラルを高める事、そこから職業奉仕が生まれる。「1に仕事、2に仕事、3、4は別にあつて 5にロータリー」これがロータリーと永くつきあう秘訣である。

山本先生は、その後1985年3月26日逝去されるまでの17年間砺波RCに在籍され、81～82年度の26代会長をつとめられている。